

魅力再発見！  
わが町の伝統文化

# 花手箱

平安の都の栄華を偲ぶ 色鮮やかな宝箱

鮮やかな色彩が特徴の郷土玩具「花手箱」は、熊本県の南に位置する人吉地方で主につくられてきました。モミ・ヒノキ・杉などの板でつくられた木箱は、木肌を白く塗ったものや木目を生かしたもののなどがあり、その上に赤や緑で椿の花が描かれています。昔は女の子用の宝箱として、おはじきを入れたり、お手玉を入れたりと大切に使われていたそうです。

花手箱の起源は今から800年以上前、平安時代までさかのぼります。時の権力者である平清盛が自ら肥後国司となり、直轄地とするなど、当時の熊本は平家との繋がりが強かったといわれています。その後、権力をほしいままにした平家もやがて源平の争いに敗れることになりました。そして、平家方が落ちのび、身を隠したとされる落人の地の一つが、肥後国の人吉球磨地方でした。平家方の女性たちも夫や恋人を追って都を離れて肥後まで来たのだそう。そのようにして都から肥後国の人吉球磨地方に逃れた平家の落人が、生活のためにつくりはじめたと伝えられている木工玩具のひとつが「花手箱」なのです。

花手箱は熊本の伝統工芸品として、一つ一つ手作りし、手描きでつくられています。また、熊本県PRキャラクターくまモンなどのキャラクターとのコラボや、

和食弁当とのコラボなど、様々な新しい展開もみせています。平安時代の人々が京の都の栄華を偲んで、都の暮らしを懐かしみながらつくりはじめたと伝えられている花手箱は、昔も今も変わらず手に取る人に元気を与えているようです。



つくり手、住岡郷土玩具製作所  
による作品。



取材協力

## 熊本県伝統工芸館

「観て」「触れて」「知って」今の暮らしと伝統工芸をつなぐ場所。館内の常設ショップで花手箱も販売中

住 〒860-0001 熊本県熊本市中央区千葉城町3-35  
URL <https://kumamoto-kougeikan.jp>